

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理小委員会		主 査 名：西名大作 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：松原斎樹
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：本小委員会は、感覚・知覚心理をキーワードとする横断的な組織として、研究交流を活発化することで、本学会の発展に寄与することを目的とする。 活動計画：感覚・知覚心理に関し予め設定したテーマに沿って適当な研究者を委員内外より選定、シンポジウムを開催する。本年度は1～2回の開催を予定した。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：西名大作 (広島大学) 幹事：原 直也 (関西大学), 原田昌幸 (名古屋市立大学) 委員：秋田 剛 (東京電機大学), 梅宮典子 (大阪市立大学), 太田篤史 (横浜国立大学), 合掌 顕 (岐阜大学), 澤島智明 (佐賀大学), 竹原広実 (京都ノートルダム女子大学), 竹村明久 (大同大学), 土田義郎 (金沢工業大学), 松原斎樹 (京都府立大学), 光田 恵 (大同大学), 宮本征一 (摂南大学), 山中俊夫 (大阪大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	143,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	建築空間における感覚・知覚心理シンポジウム (第 11 回) 「快適? 健康? プロダクティビティ? 建築環境のめざすべきところは…」 (2012.6.2) 参加者数：71 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	シンポジウム 1 回, 小委員会 6 回を開催した点は, 計画達成したといえるが, これまでの活動の総括としての研究会やシンポジウムの開催に至らなかった点は残念である。ただし, 活動の総括としての書籍刊行に対して議論を進め, 次年度, 刊行小委員会へ発展する道筋を整えた点は評価しうる。
委員会活動の問題点 ・課題	今年度は刊行という具体的目標を掲げ, 議論を進めたことから, 委員会の出席率も高くなったが, 委員会における問題意識の共有化が全委員において即座に図られているとは言い難いので, 刊行にあたっては, より軽快なフットワークが求められるため, さらなる改善を図りたい。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>建築環境工学の音，光，熱，空気等の各分野において，感覚・知覚心理学的手法を用いる研究を主として取り扱い，研究成果をご紹介いただくシンポジウムの開催を軸として，横断的な研究交流を行い，参加者のポテンシャル向上を期するのが本小委員会の目的であり活動内容である。</p> <p>2009 年～2012 年の 4 ヶ年については，第 7 回～第 11 回の 5 回のシンポジウムを企画，開催し，大学や研究機関の研究者のみならず，初学者や一般の方々に至るまで，いずれも多く参加者に恵まれ，活発な討議が行われており，概ね主たる目標は達成したと考える。</p> <p>また，前身の小委員会を含め，これまで開催した計 11 回のシンポジウムでは様々なテーマのもとに活発な議論が展開されているが，それらの内容を会員や一般の方々に広く還元を図るために，シンポジウムの内容を再構成した書籍の刊行をかねてより議論してきたが，次年度から企画刊行運営委員会傘下の小委員会として活動を進める道筋を立てたことも評価しうる。</p> <p>以上から，総合評価は A としている。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。